



## 今月のテーマ：令和7年食中毒の発生状況

### 令和7年食中毒の発生状況

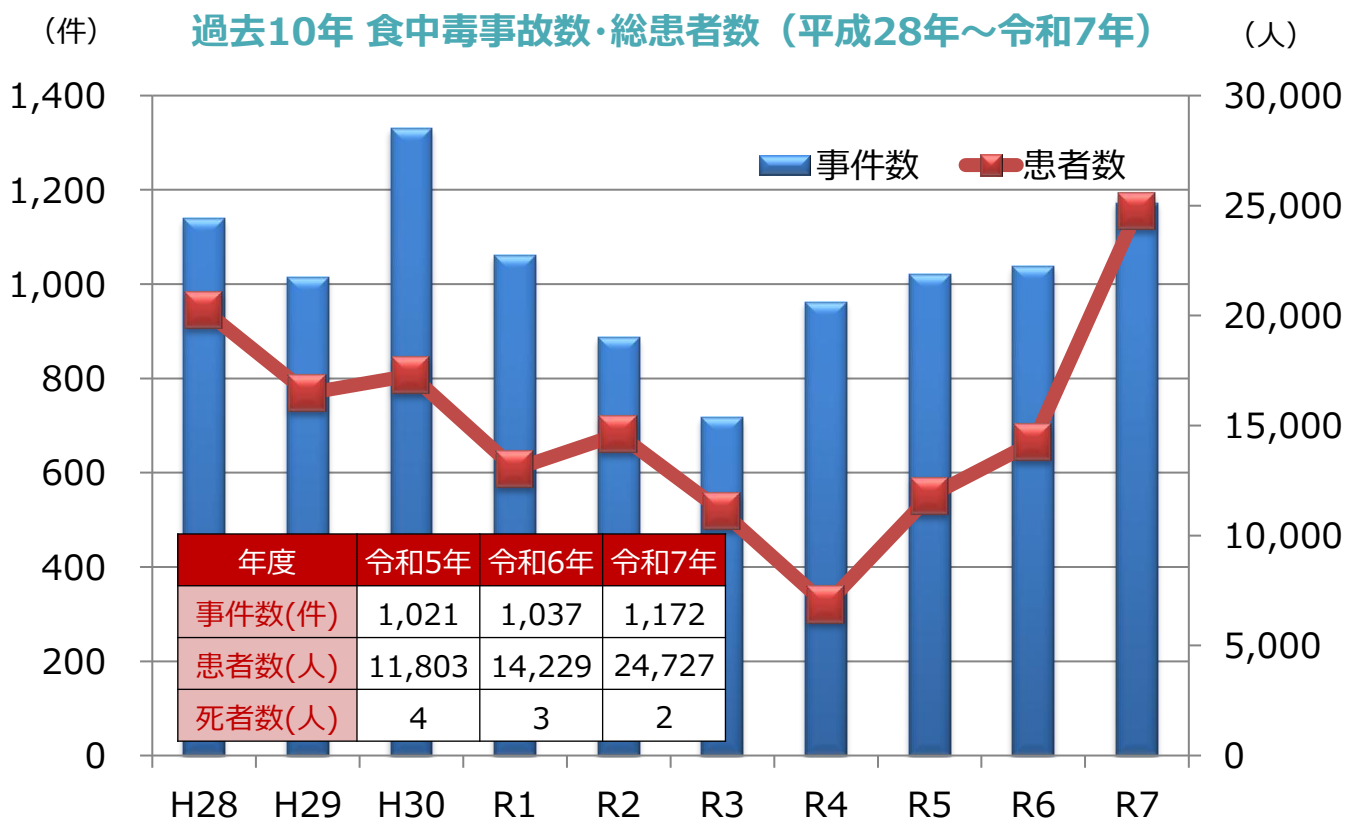
今回は、令和7年食中毒の発生状況についてご紹介します。

#### ■食中毒の発生状況

令和7年の食中毒発生件数は1,172件で、前年より135件増加しています。過去10年間で2番目に多い水準となっており、依然として高い発生状況が続いています。

また、食中毒患者数は24,727人と、前年の14,229人から大幅に増加しています。

これは、患者数2,000人以上の大規模食中毒事故が1件発生したことに加え、ノロウイルスによる食中毒が、令和6年の事件数276件・患者数8,656人から、令和7年には事件数462件・患者数18,566人へと増加したことが大きく影響しています。



#### ■患者数500人以上の食中毒事例（令和7年）

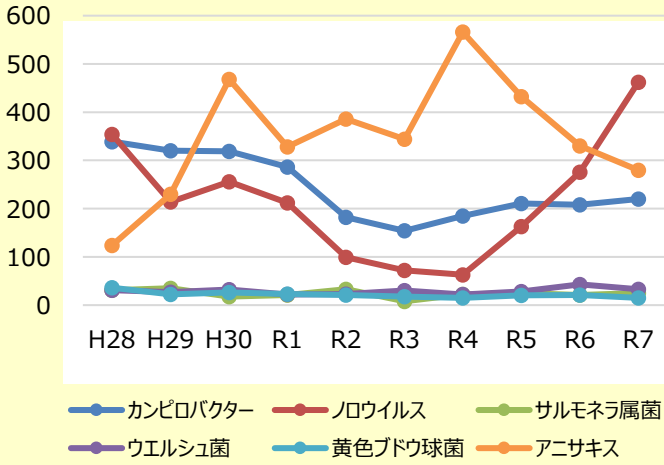
都道府県	発生日	原因食品	病因物質	原因施設	摂食者数	患者数
兵庫県	2月8日	令和7年2月8日（土）に提供された弁当	ノロウイルス	仕出屋	4832	2307
愛知県	1月30日	不明（1月30日から2月1日までに製造された弁当）	ノロウイルス	仕出屋	1805	769

# ■ 病原物質別の食中毒発生状況

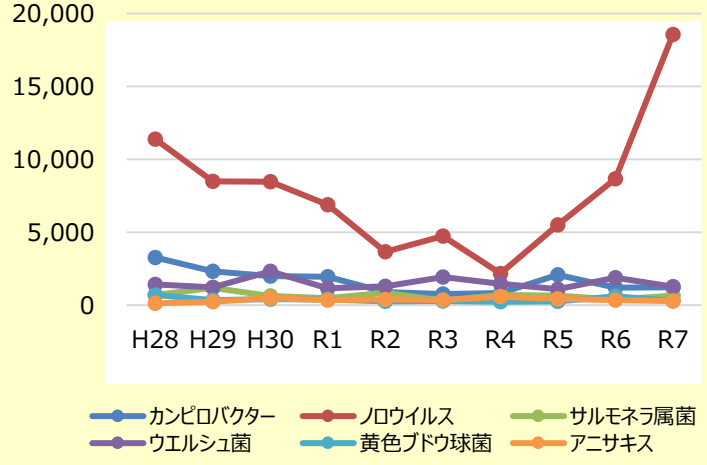
令和7年に発生した食中毒のうち、事件数が最も多かったのはノロウイルスによるもので462件となり、次いでアニサキスが280件、カンピロバクターが220件となりました。

一方、患者数が最も多かったのもノロウイルスによる食中毒で18,566人にのぼり、次いでウエルシュ菌が1,260人、カンピロバクターが1,226人と続いています。

病因物質別**事件数**の推移



病因物質別**患者数**の推移



## ■ ノロウイルスが急増している理由

### ● 気温の影響

令和7年は2月中旬から3月初旬にかけて寒波が続き、乾燥した日が多かったため、ウイルスの活性化しやすい状況が続きました。

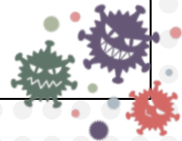


### ● コロナウイルスの影響

新型コロナウイルス感染症流行期は感染対策の徹底により、ノロウイルス食中毒の発生は抑えられていました。しかし、その影響で免疫が低下し、対策緩和後は感染が拡大しやすくなったと考えられます。

### ● 新しい型の流行

近年は新しいタイプ（例：GⅡ.17など）の増加がみられ、十分な免疫を持たない人が多いことから、感染が拡大しやすくなっていると考えられます。



## ■ 食中毒予防の基本

食品衛生は「**手洗いに始まり、手洗いに終わる**」と言われています。忙しい時こそ基本を疎かにせず、正しい手洗いを徹底しましょう。

### 手洗い方法



### タイミング

- ① 作業に入る時  
作業が変わる時
- ② 休憩後(トイレや食事など)
- ③ ダスターを触った後
- ④ 顔や毛髪に触れた時
- ⑤ 清掃後やゴミに触れた時
- ⑥ 接客時、またはその後  
(電話対応等)